「こんにちは！知事です」（令和４年１０月４日（火）板柳町立板柳中学校）　概要

知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換する「こんにちは！知事です」について、板柳町立板柳中学校での実施概要をお知らせします。

生徒会の皆さんから学校紹介をしていただくとともに、代表生徒４名と知事が意見交換を行いました。

（参加：全校生徒２７９名）

（発言生徒１、３年男子）

少子高齢化が進み、町や地域の活気が少ないように感じます。板柳町でも、周囲のりんご畑を見ると、木を伐って農業を辞めているところも目につきます。少子高齢化で農家の人たちが人手不足になっていると思うので、若い人が手伝い、魅力を伝えるような活動が大切だと考えます。

例えば、「おてつたび」というお手伝いプラス旅を合わせた事業があるので、そのような既存のプラットフォームを活用するものも有効だと思いますが、青森県の基幹産業である農業と地域活性化の関連について、知事のお考えをお聞かせください。

（知事）

ありがとう。

とても大事なことを聞いてくれたと思っています。

青森県の課題、一杯あるんだけど、一番の問題は、少子化。高齢化が悪いとは言わない、皆、元気に年を取ってくれている。子どもの産まれてくる数が物凄く減ってきていて、特に、今回のコロナで、毎月、経済統計報告を受けるんだけど、生まれる子どもの数が５００人を切っている状態で。結婚する人も凄く減っている。

県で今、マッチングアプリを使って結婚する相手を探すという今までと違った方法も始めています。そうしたら結構応募してくれました。少子化は、社会全体の活力、地域の集落、町や村を維持するのに困るということに繋がります。

その中でも、特に農業関連の話を出してくれましたが、農業は、３千億円農業というような良い状態です。秋から土日になると、全国を回ってセールスしています。うちのりんごとにんにく、ちょっと置かせてくださいということでスーパーなどを回っています。

例えば、農家の所得は知事就任以来、約２倍、農業産出額は２．６倍になりました。りんごは特に１千億円産業になって、もう８年ぐらいになります。台湾や香港へ行って売りまくってきました。

建設や福祉などどの分野でも、皆、人材が足りないんだけど、農業だけは、若い人たちが就農しており、なおかつ今まで農家でなかった人がＩターンということで、ここ最近は毎年１００人以上が、青森県でりんごや野菜を作りはじめて食べていける状態まできています。

全体の農家は減っているけれども、農業生産額は３千億円を保ち、なおかつりんごの販売額は１千億円を超えることで、今での倍、収入が上がったら農家の人もうれしいよね。こういう状態が続いているから、何とか、このまま維持していきたいと思っています。

では、全体の話を担当課から説明させていただきます。農業とりんご産業は頑張るから。

（構造政策課）

農業の労働力不足と地域活性化ということでスライドを御覧いただければと思います。

県内の農家のうち、約半数が担い手不足を感じているという状況です。

この調査結果となった背景として、農家が補助労働力として確保している人手は、近所の人や、お父さん、お母さんのお友達など、地元の方が非常に多く、その方も高齢の方が多いということで、人手不足を感じているということに繋がっていると思っています。

板柳町でも非常に生産が盛んなりんごですが、摘果作業の５月から７月、あと収穫作業の９月から１１月が人手不足を感じているという結果となっております。

青森県の基幹産業である農業が停滞しないようにするには、県内外問わずに若い人がどんどん農業に関わるようにしていくことが、とても重要です。

そこで、人手不足の解消となるような県内の取組みを御紹介いたします。

まず、県南の南部町にあります、名久井農業高等学校の活動です。

名久井農業高校では、授業の一環として、５月と９月に町内の農家の農産業をお手伝いしています。スライドでは、野菜の苗の植え付けと、樹園地の剪定枝の片づけのお手伝いをしている写真です。

次に県の取組です。

スライドに「青天農場で農作業を体験して、農業で働いてみませんか？」とありますが、これは、農業で働きたいけれど農業経験がない方を対象に、県が農作業を体験できる「青天農場」という農場を県内に６８か所設置して、農業未経験者が農業でアルバイトをできるような環境づくりをフォローしているものです。

ちなみに、板柳町の青天農場は４か所あり、すべて、りんご園地です。

また、企業の社会貢献活動として、地元の農家さんをお手伝いするよう、企業に働きかけています。右の上の写真ですけども、これは、板柳町のりんご園で、今年の４月、青森市内の電気工事会社の社員７名が、りんごの剪定枝の片づけ作業を手伝っているものです。

下の写真ですけども、これは、障がい者が農作業を手伝う、いわゆる農福連携という取組で、この農福連携による農作業は、にんにく１球をバラバラにして、１粒にしていく「たねこぼし」という作業です。

今回、生徒さんが大切だと考えている、若い人が手伝い魅力を伝える活動として提案のあった「おてつたび」のような取組は、県では、まだ盛んに行われていません。県外からの人材の確保と

いう重要な課題でもありますので、これから、そういうことも取り入れていきたいと思っております。

ただ、若干、課題もあります。

２０２０年の国の統計によりますと、２０１５年から５年間で県内の農家さん、約７千戸も減少しているという状況です。

このような中で、若い人に農業の魅力をどう伝え、農業に携わってもらえるかが大きな課題です。

先ほど、知事から説明のあったりんごのように、とにかく儲けて魅力を発信しているのも１つですし、先ほど言ったように、若い人に農業を理解してもらう様々な機会を作っていくというのも１つです。

具体的には、県では、農作業を手伝う人を確保するとともに、若い人がもっと農業に関心を持って働いてみたいと思ってもらえるように、若手農業者の確保にも取り組んでいます。

スライドの左側は、「農業法人出前授業」ということで、五所川原農林高等学校や柏木農業高等学校の生徒さんに農業の魅力を理解してもらうため、県が出前授業をやっている時の写真です。現地にも視察に行っております。

スライドの右側は、高校生や大学生を対象に県内の農業法人で働いてみたいという方を対象にした合同企業説明会「あおもり新・農業人フェア」という取組で、若い人に農業の魅力をアピールしています。

これらの取組により、農業に参入する若い人を増やして、地域の活性化に繋げていきたいと考えています。

（知事）

いろいろやっています。

若手農業トップランナー塾といって、「農業って、とても面白いんだよ」ということを県外出身者を含む意欲的な若手農業者たちに集まってもらい、勉強会をやっています。

それから、グリーン・ツーリズム、海外のお客様もいっぱい来てくれますが、そういったグリーン・ツーリズムなどで、農業って、凄く魅力的なんだよ、遊びに行くんだったら、弘前とか青森に行けばいいし、でも、住んで、子育てするんだったらここがいいよ、というようなことを体感していただけるよう、一生懸命取り組んでいます。

儲かる、食べていけるような取組をしっかりと進めながら、皆に元気出そうよっていうふうにやっています。

（構造政策課）

さらに、県では、先程の「青天農場」のほかに、企業で働いている人がアルバイトで農業をやることで、農作業を手伝う人が増えるような体験会を行っています。また、外国人の方が青森県の農業を手伝いに来ていますが、そういった方たちの受入を増やすような活動もして、農業を手伝ってくれる人の全体の人数を増やす取組をしています。

皆さんも、今後、街で外国人の方を見かける機会が増えるかもしれませんが、その中には農業を手伝いに来てくれている人たちも多くいると思います。

（知事）

全く別ジャンルの、人材派遣などをやっていた会社が、農業は最先端で、これから絶対、いろんな人たちがこの分野に入ってくると言ってくれて、今、弘前に事務所をおいています。人材派遣業なので、農家を手伝ってもらうために、何時から何時までとか、何月から何月までとか、多様な働き方を整えて、新しい農業を進めています。農業って凄いよと、クリエイティブ、楽しい、儲かる、というようなことで、我々では気が付かないような観点で、そのようなことも始まっています。

青森県にとって農業は３千億円産業っていうだけではなく、農業があるからこそ集落、地域の集落が守られて、そこで我々は食料を作っているし、お祭りがあって、文化、食と命と文化のゆりかごと言いますが、ゆりかごを守りたいということで、農林水産部も知事も頑張ってやっています。

来週からいよいよ、ショッピングセンターやスーパーでのフェアが始まります。日本一の美味しい板柳のりんごを売ってきます。

将来の夢は何ですか。

（発言生徒１、３年男子）

将来の夢は、特には決まってないんですけど、工業高校に入って、工業関係の仕事をやりたいです。

（知事）

嬉しいです。

実は青森県は、皆がびっくりするような半導体の検査機器を作ったり、胃カメラの先端部を作ったり、日本の他の地域にはないようなものづくり産業ができています。

是非、県内のそういったところに勤めてくれたら嬉しいです。

でも、いろいろ覚えるために東京に行ったり世界に行くことも、自分の人生だから、自分が一番進みたい方向に進んでいくことがいいと思います。

でも、そのためには、しっかり勉強してください。

よろしくお願いします。

（発言生徒２、３年女子）

青森県として、これからグローバル化に対応した人材の育成が必要になると思いますし、私自身、そうなりたいと思っています。

例えば、そのように思っている子どもや家庭に対して、英会話教室や英検などの検定料に対する補助金などがあれば、金銭面などで抵抗感なく国際化教育を行えると思うのですが、青森県として、教育の分野から国際化、グローバル化に対応する人材育成について、取り組まれていることを教えてください。

（学校教育課）

県教育委員会では、グローバル化に対応した人材の育成を目指して、国際化に対応する教育の推進を学校教育指導の重点として掲げております。

また、一人ひとりの児童・生徒の皆さんが、我が国や諸外国の文化と伝統について、関心と理解を深め、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努めており、その中で外国語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいます。

文部科学省が実施している調査結果によると、本県の中学校３年生で英検３級相当以上の英語力を持つ生徒の割合や、生徒が授業の５０％以上で英語を使用してコミュニケーション活動に取り組んでいる学校の割合が、残念ながら全国平均を下回っています。

そこで、英語の授業で生徒の皆さんが英語の先生やＡＬＴの先生と自分の考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を日常的に行うことができるようになることを目指して先生方に頑張ってもらっています。

実は私は、西北の稲垣中学校で、３５年くらい前に採用になりまして、その頃からＡＬＴが学校に入っていまして、一生懸命コミュニケーション能力を中学生の皆さんにつけてもらおうということで、先生方、一丸となって頑張ってきたところです。

また、令和４年度から、県内全ての中学校で、日本英語検定協会が開発した、「読むこと」と「聞くこと」の英語の力を測定することができる「英検ＩＢＡ」というものを無償で実施できるようになり、このことを各中学校にお知らせしてきました。

今年度は、公立中学校、県内の公立中学校１４９校中１０３校、６９％において、この英検ＩＢＡを無償で実施しています。

来年度は、是非、板柳中学校さんも参加してくだされば と思っております。

また、知事が台湾等に出かけて、一生懸命農産物等、宣伝しているわけですが、高校生の方が、台湾の高校生と一緒になって、それぞれの学習内容や身近な環境問題等について、課題解決に向け、英語で討論し、理解を深めることができるよう、共同学習等に取組んでいる学校もあります。

例えば、青森商業高校では、青森県の特産品を活用した商品開発を台湾の高校生と一緒に行って、現地調査や販売まで実践する計画を立てて、今、頑張っています。

（地域活力振興課）

続いて、学校教育以外の部分について御説明いたします。

まず、グローバルとは？ということについてですが、青森県内でも、空港から、今はコロナで止まっていますけども、直接海外に行けたり、海外からも、空からだけではなく、豪華客船などで沢山外国の方が来てくれております。また、昨年７月には、縄文遺跡群が世界遺産に登録されましたので、皆さんも県内にいながらにして、グローバルを身近に感じる機会が増えていると思います。

このような中、県では、１０年前の２０１３年度から、地元青森を拠点に世界を相手に挑戦する「グローバル人財」の育成に取り組んでいます。

取組の内容を具体的に紹介いたしますと、大学生、社会人を対象として、三沢市の国際的な地域特性を活かして、米軍基地内でのフィールドワークや、在住アメリカ人との異文化交流などを取り入れた人財育成のセミナーを行っています。

中学生対象のものとしては、毎年、夏休みに、元ＪＡＸＡの川口先生が塾長をしている「未来ひらめき創造塾」を実施しています。国際コミュニケーション編というプログラムの中で、青森にいる国際交流員や留学生などに協力いただき、文化の違いや異なる文化の人との付き合い方を考える異文化交流のトレーニングをしています。

こちらは毎年、夏休みに行っており、来年も行いますので、興味のある方は、是非応募してください。

最後になりますが、高校生向けの事業について説明します。こちらも、毎年、夏休みに福岡で実施している「日本の次世代リーダー養成塾」に青森県の高校生を派遣しております。こちらは、世界に通用する人財の育成を目指しているのですが、日本だけではなく、アジア各国から多くの高校生が沢山参加しており、青森県からの参加者も毎年、沢山の刺激を受けて、かなり成長して帰ってきていますので、皆さんも高校生になったら、是非、御応募いただければと思います。

（知事）

ＩＢＡもあるけども、海外ともいろいろ交流したり、国内でもいろんな地域や各年代を対象とした勉強会を開いたり、様々な取組を進めています。

さっき、台湾の話が出たんだけど、どこに行っても英語で話すことは大事だと思っています。

将来、何になりたいですか。

（発言生徒２、３年女子）

イングリッシュティーチャー

（知事）

将来、英語が活かせる仕事、ティーチャーになってくれるそうです。うれしいです。

（発言生徒３、３年女子）

板柳町には、豊作を祈る祭りとして、８月に「りんご灯まつり」というものがあります。板柳中学校の生徒も毎年、その祭りに参加して郷土の良さに触れる機会になっていました。しかし、コロナ禍ということもあり、私が中学校に入学してから３年連続で祭りは中止となりました。

板中生として、私は１回も祭りに参加することができませんでした。このまま、地域の祭りが開催されないことで、地域の人々の心が離れていったり、町の活性化が滞るのではないかと、とても不安な気持ちです。

これまで、青森ねぶた祭りをはじめとする、青森県を代表する祭りも中止や制限の中、厳しい御対応を迫られていると思います。

コロナ禍に限らず、地域の伝統や誇りを継承していくために、地域の祭りは非常に重要なものであると考えますが、そのようなものを守るための取組や政策等について、知事のお考えを聞かせてください。

（知事）

ありがとう。凄くしっかりした意見だと思います。

さっき、ゆりかごを守りたい、農山漁村集落を守るために、という話をしました。その中で大事なのは、例えば、神社があったり、祭りがあったり、文化を守ろうということは、とても大事なことだと思っています。

経済とか、産業経済とか、健康だけではなくて、もう１つ、我々が生きていく上で文化をどう捉えるかだけど、何か生きるための価値を、お金や健康の他に感じさせるものがあるとすれば、文化だと思います。その文化のアイデンティティが凄く大事だと思います。

今年は、やってまろう、祭りって、ねぶたも花火大会も３年ぶりに開催しました。

それでは、担当課の方からお話をお願いします。文化は凄い大事だと思っています。

（県民生活文化課）

それでは、文化芸術という視点でお答えしたいと思います。

本県には、豊かな自然環境や特色のある歴史・風土が沢山あります。例えば、世界自然遺産白神山地。身近なところでは岩木山。また、北海道・北東北縄文遺跡群。こういうものの中で育まれてきた多彩な文化芸術は、生活の一部となっています。

また、「りんご灯まつり」をはじめ、ねぶたやねぷたなどの地域の祭りは勿論、伝統行事、郷土料理、けの汁やにんじんのこ和えなどの郷土料理も、地域に根差した文化と言えると思います。

文化芸術は、県民に深い感動を与え、心を豊かにし、生活に潤いと安らぎを与えてくれるものです。

そこで、県では、文化芸術の力を活用した魅力ある青森県を目指すこととして、今年３月に「青森県文化芸術推進計画」を策定しました。この計画では、めざす姿、目標として「「感じる」「動く」「創る」文化芸術の力で魅力ある青森県へ」を掲げ、様々な取組を進めることとしています。

特に「感じる」ということは、めざす姿の出発点になりますので、県民の皆さんに文化芸術に触れてもらって、感じる機会を沢山提供したいと思っております。

具体的には、県民の皆さんによる芸術文化活動の成果を発表する機会、そして県民の皆さんに見ていただくという機会を提供するために、毎年度、「県民文化祭」を開催しています。今年は、開会式にあたるオープニングフェスティバルを９月４日、三沢市で行いました。

続いて、県民の皆さんの美術の発表、鑑賞の場となる「青森県美術展覧会」も開催しています。キッズ・ジュニア部門で小中学生の書道と絵画も募集し、２２０点もの沢山の応募をいただきました。

また、県で重点的に取り組む事業で、令和２年度からの３か年の事業として、「あおもり文化みらいびと育成事業」を東京藝術大学の先生方と一緒になって、小中学生の皆さんを中心にワークショップをやり、網を作りました。縄文の人たちが、多分、魚を獲っていただろうと思う網を作り、その網で漁体験を９月１０日にやりました。６０ｍの網を使ったので、魚、どれぐらい獲れるんだろうと思って楽しんだんですけども、風が強くて魚は獲れませんでした。

魚は獲れなかったんですけれども、そこで終わりではなく、ＳＤＧｓを目指して、網を県立美術館で展示し、その網を解体して植物に戻そうというところまで今年度やる予定です。

その他、助成事業もございます。

最後に、地域の祭りなど、大切な文化を守っていくためには、生徒さんのように地域の文化に興味・関心を持ち、参加する人々を増やしていくことが重要と考えております。「りんご灯まつり」が中止になって残念だったと思いますが、我々も様々な事業を行っていますので、是非、そちらの方にご興味を持って参加していただければと思います。

（知事）

ということで、いろんな文化事業、文化を守るために講座を一杯やっています。

でも、今日は、新しい話題を紹介します。国体って知っているよね。それが、２０２６年に青森県では、国スポって言いますが、国民スポーツ大会が開かれます。

そこで、青森県の新しい文化を作ろうということで、歌とダンスを披露するためにチームが来ています。

（国民スポーツ大会準備室）

知事が今言ったように、２０２６年に青森県で国民スポーツ大会が開催されます。

２０２４年から国体が国スポ、国民スポーツ大会という名前に変わって実施されます。

丁度、今、１０月１日から１１日まで、栃木県で国体が開催されている最中です。今から４年後、丁度この時期に、青森県で「青の煌（きら）めきあおもり国スポ」が開催される予定です。

スローガンは、「翔けろ未来へ縄文の風に乗って」。青い海や青い空、自然豊かな青森県で沢山の人たちが生き生きと煌（きら）めくような大会、そして縄文時代の遺跡が数多く残る青森から、新たな歴史と感動を発信し、また未来に繋げていけるような、そんな大会を目指して、私たちは開催準備を進めています。青森県での開催は４９年ぶりです。

私たちと一緒に大会をＰＲするマスコットキャラクターがいます。皆さん、もう知っているかもしれません。「アップリート君」です。

そして、今、流れている曲は、王林さんたちがいた頃のりんご娘さんが歌う大会のイメージソング「翔けろ未来へ」という曲です。

「国スポ」がどういう大会なのかと言いますと、４７都道府県の代表選手たちが出場する大会です。今から青森県で開催される国スポで活躍することを目指して、何年も前から頑張っている青森県選手たちが沢山います。もしかして、板中生の中にもそういう選手たちがいるかもしれません。

その一方で、国スポは選手のためだけの大会ではありません。県民、誰もが参加できて、皆でつくり上げる大会です。

例えば、ここ板柳町でも、子どもから御高齢の方まで、皆さんが気軽に参加できるデモンストレーションスポーツの「ウオーキング」と「ふれあいゲートボール」という２つの競技が開催される予定です。

また、全国から沢山の人が青森県を訪れるので、そのような来県者をおもてなししたり、案内したりする時に欠かせないのが、ボランティアの存在です。

今、大会を支えるボランティアを大募集しています。ボランティアには、２つあり、私たちと一緒に大会をＰＲする広報ボランティアと、大会の開催期間中に活躍する運営ボランティアです。広報ボランティアは、皆さんが高校生になってから、そして運営ボランティアは、ここにいる板中生全員、今から登録することができます。スポーツを「する」、「見る」、「支える」、皆であおもり国スポを盛り上げましょう。

ところで、皆さん、この曲に合わせてダンスがあるのを知っていますか。「青の煌（きら）めきダンス」と言います。知らない人は、ぜひ、今日覚えてください。今日は、皆さんと一緒にこのダンスを踊りに来ました。

ここからは、ダンスの振り付けを考えてくださった先生にバトンタッチします。

【ダンスの振り付け説明】

皆さん、こんにちは。

大分、疲れてきたと思いますので、今日は座ったままでいいですから、一緒にこの国スポダンスを覚えてもらいたいと思います。

皆の笑顔がキラキラと輝くような国スポを目指してという思いを込めて作りました。

短い時間ですが、一緒に踊ってもらいたいと思います。

少し肩を揺らして、軽く準備運動をしてください。

今日、覚えてもらいたい動きは２つあります。

１つ目の動きは、青森県の県の形を表現した、あおもりポーズです。「煌(きら)めくよ青森に」という歌詞に合わせて、右手でキラキラとさせた後、あおもりポーズを作ってみてください。右手のひじを上げて津軽半島、左腕を伸ばして下北半島になります。

２つ目は、サビの部分です。「夢の扉あけ放そう」というところで、顔の前で拳を合わせ、両手で扉を開く動きをします。次に「広い世界へ羽ばたこう」ですが、この部分は、手話の動きを踊りで表現しました。右手で水平に大きく回す動きで「広い」、両手で丸を描く動きで「地球、世界」を表します。「羽ばたこう」で、人差し指を伸ばしながら、右手をゆっくり上げていきます。「君の勇気信じているよ」で右手の拳の上に左手の拳を重ね、「未来に向かって」で左手のひらをぐっと天に押し上げてください。

ここまでになります。今日は、ＤＶＤをかけながら、私たちと一緒にサビの部分とあおもりポーズのところを踊ってください。

【青の煌めきダンス披露】

（知事）

この曲は、県内でどんどん広がって、皆で踊ったりすることになると思います。

（国民スポーツ大会準備室）

これから益々、第８０回国民スポーツ大会、あおもり国スポの開催に向けてどんどんと盛り上がっていくと思います。

是非、このダンスを皆で踊ってもらい青森を盛り上げていただくとともに、スポーツの力を通して、皆が一つになってあおもり国スポが開催できるように、盛り上げていってもらいたいと思います。

是非、よろしくお願いいたします。

（知事）

将来の夢は何ですか。

（発言生徒３、３年女子）

政治に関わる仕事をしたいです。

（知事）

いいね、凄いね。

実は、青森県で不足しているものは何かと言ったら、女性の政治の参加だと思っています。クォータ（quota）制と言って、議員の一定数が女性になるような、そういう社会になれば、物凄く変革するんじゃないかっていうことが言われています。

だから、クォータ制の旗振り役として頑張ってくれたら嬉しいです。一緒に頑張ろう。男女共同参画とかクォータ制、そういう時代がくることを期待しています。よろしくお願いします。

（発言生徒４、３年女子）

私は、誇りを持って自分の故郷だ！という町、県にしたいと考えていて、生徒会長として「昇華」という学校スローガンの下、自分たちの生活を自分たちで良くすることを意識して生徒会活動を行っています。

板柳町は、とっても住みやすくていい町なのに「仕事がないから」という理由で町を離れていく人が多く、その結果、板柳高校の閉校、小学校の統合計画などが進められています。

地域の核となる学校が閉校になると、そこに人が集まる機会が失われ、活気が失われていくという側面もあると思います。少子高齢化の中で学校の統廃合を避けては通れないと思いますが、それによって空いた学校を有効活用すれば、地域の活性化にも繋がると思うのですが、他の自治体での活用事例や県の考え方などについて教えてください。

（知事）

ありがとう。

実は、青森県は、これまで本当に仕事がなくて、苦労してきました。自分が知事になった頃には、有効求人倍率が０．３０で、１００人仕事がしたいと思ったら３０人分しか仕事がない時代でした。やっと最近になって、１００を超えるようになりました。

本当に仕事がなくて、働くところがなくて、だから、つい１０年くらい前までは、青森県の高校生が首都圏の大きい会社に入れるように努力していました。本当に育てても、育てても、他県に就職させなきゃいけない状況でしたが、生きていくためには、働く場がなければいけないということで苦労してきました。

だから、企業誘致も約６００社頑張り、起業創業といって、仕事を始める人たちが凄く増えて、さっき農業の話をしましたが、農業の所得が倍になったから、帰って来てくれる人が増えたり、そういう状況です。

でも、仕事は何とかあるようになったんだけど、結婚する人が減ってしまって、お子さんが生まれなくなって、というような厳しい状況です。

若い世代、赤ちゃんを産んでくれそうな年代を首都圏にどんどん出してしまったというのが凄い辛いわけです。

だからこそ、どうやって取り戻す、ＵＩＪターン、農業だけではなくて、いろんな新しい仕事があることを呼びかけるなどして、今、頑張っています。

では、話を元に戻して、学校をどう活用しているかということをお願いします。

（高等学校教育改革推進室）

学校の統廃合のことについてお話します。

まず、最初に生徒さん、誇りを持って自分の故郷だと言える町にしたいと考えていらっしゃるということで、「嬉しい」この一言に尽きます。そしてそれは、ずっと思っていて欲しいなと思います。

現在、中学校の卒業者数は、どんどん減っています。

青森県全体の中学校卒業予定者数の推移を表しているのですが、平成２９年に約１万２千人いた中学生が令和１４年には約８千人、大体３分の２程度まで減ると見込まれています。

生徒数の減少に合わせて、そのまま学校を小さくしていくと、その数に合わせて先生の数も少なくなります。生徒一人ひとり、興味も関心も違うと思いますが、科目の設定も先生の数が少ないと設定できなくなったり、友だちとお互いに学んだり、交流する機会が少なくっていきます。

また、体育祭、文化祭、いろいろな学校行事や、部活動の数や人数が少なくなるなど、活動の活気が低下するというような課題があります。

子どもの数は、減るのはしょうがないのですが、そのような中でも、どうやったら高校で、皆、友だちをつくったり、競争して切磋琢磨したり、いろいろな選択肢の中で将来を考えてもらえる学校にできるか、それを考えて、学校を統廃合したりしています。

大きな規模の学校だと、先生の数も増えて、いろいろな授業もやっています。例えば、理科ひとつとっても、生物、物理、科学、地学などの科目設定もできます。また、いろいろな生徒と接して、いろいろな人と活動、行事、部活動を一緒に行うことができます。

地域の活性化ということを言ってくれましたが、生徒さん達自身が自分の生まれ育った、「ふるさとあおもり」に対する愛着、誇りというものを持って、地域を支える人財として成長していくことで、地域の活性化につながると考えています。今、高校において、一番力を入れてやっているのが「あおもり創造学」です。これは、学校がある地域だけではなく、自分の住んでいる地域、生まれ育った地域について理解を深める学習です。是非ここで、故郷について、愛着と誇りを育んでいただきたいと思っております。

（学校施設課）

今、説明があったような取組等と併せて、県では、県立学校の統廃合によって利用しなくなった校舎などの利活用にも取り組んでいます。

例えば、県立五所川原高校東校舎は、五所川原市立の中学校として使用されていますし、また、県立弘前第一養護学校の高等部は、元県立岩木高校の校舎に移転して、より専門的な職業教育を行う職業コースなどを一層充実させているところです。

続けて、市町村立の学校の事例になりますが、学校として再利用する他にもユニークな活用例がありますので、幾つか御紹介いたします。

１つ目の事例は、西目屋村の西目屋小学校です。

西目屋小は閉校になったのではないのですが、元中学校の校舎に平成２７年に移転しましたので、空校舎になっていました。

平成２９年から、ブナコ西目屋工場が移転して、ブナの木材で作る木工品、「ブナコ」の製造・販売をしております。

ブナコには、オーディオのスピーカーの製品もあるのですが、写真は、元は音楽室で、ブナコスピーカーを試し聞きできる視聴室として利用されているところです。

こちらは、元はランチルームでした。ブナコ細工の照明器具や、カラフルなテーブルウェアに囲まれた、ブナコ・カフェになっています。ブナコを展示・販売するショップなども併設されています。

続いて２つ目の事例です。

平成６年度末で閉校した大鰐町の大鰐第三小学校を改修して、平成２８年から、おおわに自然村が生ハム工房として利用しています。

左上の写真は、生ハムにする肉の塊を２年以上吊るして熟成させている様子ですが、黒板とかロッカーがそのまま残っていて、熟成室が元は教室だったということがわかります。

冷涼で寒暖差が大きいという気候を活かして、自然の風だけで熟成させるというのが、ここの生ハムの特徴なんですけども、教室は、大きな窓があって風通しが良い造りになっているので、長期間の熟成に大変適しているのだそうです。

このように学校施設というのは、閉校した後でも地域にとって貴重な財産ですので、県や市町村では、新たな学びの場としたり、地域の活性化や雇用の促進に繋がっていくように、様々な利活用を検討して取り組んでいます。

（知事）

高等学校の再編や、市町村もそうですが、子どもたちが減っている中において、良い教育環境を保つために、工夫しながらやっています。校舎は、それぞれのところでいろいろな形で利活用しています。

将来の夢は栄養士ということですが、青森県には、県立の保健大学というところがあります。そこに来て勉強してください。そうすると、栄養士さんになれると思います。栄養士さんになって一番やってみたいことは何ですか。

（発言生徒４、３年女子）

病院とか学校の給食とか、陰で支えたいです。

（知事）

実は、青森県の最大の課題は、子どもたちの健康です。下北地方を中心として、子どもの糖尿病予備軍や肥満などの状況があって、何とかしなきゃいけない。やっぱり食生活を変えていこうということで、皆で努力しています。

是非、その点も考えてくれたら嬉しいです。よろしくお願いします。

（司会生徒）

三村知事、県職員の皆様、丁寧に御回答していただきありがとうございました。ここで、代表生徒に意見交換の感想を、三村知事へのお礼の言葉をお願いしたいと思います。

（お礼の言葉、代表生徒）

今日はお忙しい中、板柳中学校においでくださりありがとうございます。今日の話を聞いて、青森県では様々なことに取組んでいることが分かりました。いろいろ青森県のためにできることをこれから頑張っていきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。

（知事）

ありがとうございました。

やっぱり３年生だからしっかりと勉強しないと。受験勉強、これはやらなきゃならない、頑張れ。それと健康ね。

（司会生徒）

ここで、三村知事に感想を伺いたいと思います。

本校生徒との意見交換はいかがでしたでしょうか。

（知事）

凄く皆、真剣で楽しかったです。

問題意識、故郷、自分の故郷だけではなく青森県全体のことも含めて、問題意識を持ってくれていることも伝わってきました。

皆から出てきた課題、テーマ、そのことは持ち帰らせていただいて、我々の将来の子どもたち、要するにきみたちの次の世代に向けて、どうしたら青森県を良いところとして選んでもらえるか頑張っていきたいと思っています。

選ばれる青森にしたいというのが、今、自分のテーマです。若い年代にも、それからＵＩＪターン、一定の年齢になっても。あるいは、結婚してお子さんがいても。そういうふうに選ばれたいと思っています。今日、皆からいただいた話は、そのことに全部役に立つことでした。

そして、特に３年生、受験勉強が何か嫌だなということがあるかもしれませんが、自分の将来のために、誰のためでもなくて、自分の未来のために今、勉強しようね。

そして、１年生、２年生の諸君には、この学校の素晴らしさを強く感じました。先生がきみたちのことを大好きなんだなと、英語の先生や校長先生の話を聞いてもそう思いました。きみたちのことを大好きな先生がいる学校、自分も凄く好きです。この素晴らしい伝統を是非、一人ひとりが感じてくれたら嬉しく思います。

きみたちの未来が必ず拓ける、そういった青森県にするために、これからも努力したいと思いました。

今日はお互いに納得できる話ができて、凄く嬉しかったです。本当にありがとうございました。